学校だより　あ　し　た　か　第７号

学校教育目標「かがやく目　ひびき合う心　ひろげる力」　富士市立吉永第二小学校
重点目標「あきらめないで　さいごまで」　平成２９年１０月１７日

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。今年の４月に小学６年生対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。

小学校では、「確かな学力・豊かな心・健やかな体」の調和のとれた育成を重視しています。本調査は、「確かな学力」を可能な限り「見える化」（この調査が「確かな学力」のすべてではありません）させたものです。今回の結果から本校の子どもたちの課題をつかみ、より確かな学力が身に付けられるよう、授業改善に努めていきます。

●全国学力・学習状況調査とは…

全国学力・学習状況調査は、小学６年生と中学３年生を対象に行われている調査です。文部科学省や教育委員会が、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。

全国学力・学習状況調査の問題は、調査内容の目的ごとに以下の３種類に分かれています。

児童質問紙調査	知識に関する問題Ａ	活用に関する問題Ｂ
○主体的に学習に取り組む態度及び学習状況に関する内容	○基礎的な知識及び技能に関する内容	○基礎的な知識及び技能を活用する思考力・判断力・表現力等に関する内容

★本校の調査結果と課題

１　学習状況調査（児童質問紙）

質問紙の中で富士市が設定した３つの重点項目で、市の目標数値をすべて上回りました。（①と②については、「あてはまる」と「どちらといえばあてはまる」の肯定的回答の合計）

富士市の重点項目	富士市の目標	H29
①　自分で計画を立てて勉強している。	60％以上	72%
②　学校の授業の復習をしている。	50％以上	57%
③　１日 30 分以上読書をしている。	43％以上	52%

これに伴って「テレビやゲーム、スマホ等の時間が２時間以上」の子どもたちが減ってきています。帰宅後の時間を、遊びや読書、学習等へ上手に活用している子が増えてきているのでしょう。きっと、ご家庭での見届けや根気強い声掛け等が、子どもたちのよい習慣づけにつながっていると推察できます。全国的な数値に比べ、学習塾への通塾が少ない本校の子どもたちにとって、家での宿題や計画的な学習に取り組みが、学習内容の定着にも大きく結びつきます。低学年からよい習慣づけを行うことができるよう、学校と家庭と連携して、今後も根気強く取り組んでいきたいと考えています。

〈重点３項目以外の良い点と課題〉

子どもたちは家や地域の方に認められ、大切にされていることを感じながら生活をしていることで、自己肯定感を高めています。目の前の小さな山をひとつひとつ乗り越えていく経験を重ねていくことで、大きな山に出会ったときにいろいろな方法を考えて挑戦し、大きな山を自分の力で乗り超える力をつけてほしいと思っています。そのためには、友達や社会と上手に関わりあっていく力も必要になってきます。自分の考えを相手に分かりや

すく伝えたり、相手の意見を正確に聞き取って理解したりしなくてはなりません。また、基礎的な知識をきちんと身に付けていくことも大事な要素です。様々な面で、是非、ご家庭の励ましをお願いします。

（全国との比較　◎大変高い　○高い　△低い）

質問項目　（肯定的回答の合計）	全国	本校
自分にはよいところがある。	78%	72%△
難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。	77%	100%◎
将来の夢や目標を持っている。	86%	86%○
学校に行くのは楽しいと思う。	86%	100%◎
家の人（兄弟姉妹をのぞく）と学校の出来事について話をする。	78%	86%○
地域の行事に参加している。	63%	91%◎
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	64%	67%○
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	42%	48%○
新聞を読んでいる。	21%	33%◎
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。（携帯やスマホでのニュースも含む）	85%	86%○
学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思う。	68%	67%△

２　国語

国語Ａ（知識）は県や全国平均を少し下回り、国語Ｂ（活用）は上回りました。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は、県や全国平均を上回っていますが、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は下回っています。

国語Ａ　課題

① 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書く。（参加たいしょう）

② 手紙の構成を理解し、後付けを書く。（日付・署名・宛名の適切な位置）

国語Ｂ　課題

① 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。

② 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる。

③ 目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く。

国語Ｂで課題となっているのは、【物語の一部】と【話し合いの様子の一部】が示され、それについての質問でした。授業の中の一場面が想定された問題です。このような場面において、子どもたちは友達の意見を正確に聞き取り、理解できているのかをみる問題です。以下の児童質問紙の回答にもあるように、苦手と感じている子も多くいます。

質問項目　（肯定的回答の合計）	全国	本校
学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思う。	54%	67%▲
４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。	60%	62%△

そのため、今後も授業の中で、友達の意見を聞き、別の子がその意見につなげて話したり、別の言葉で表現したりすることをさらに増やしていきます。また、授業のまとめや振り返りをする際に、自分で文章表現することを重ねながら、文章を書く力を付けることを実践しています。文章を書くときには、習った漢字はしっかり書くよう繰り返し指導して

いきます。

読書や俳句については、学校体制で力を入れて取り組んできた成果が少しずつ表れています。読書をすることで語彙が増え、俳句や文章の表現が豊かになります。『読書の秋』も楽しんでください。

Ｂ問題は活用の問題であり、国語で学習したことを他の教科や生活の中で、活用していくことが重要です。社会ややまびこ学習（総合的な学習の時間）等で調べ学習をしたときにどこを抜き書きするとよいのか、委員会や縦割り活動で相手にうまく伝えるために、必要な情報は何で、どうやって表現すればよいのかなどを丁寧に指導していきたいと思います。

ご家庭でも、「今のニュースの内容理解できたのか、ちょっと質問してみよう。」「小さい学年の子に、ドッジボールのルールを教えるのにどうすればよいかな。」など、実践的な場面を想定して、一緒に考え、話題にしてみてください。

３ 算数

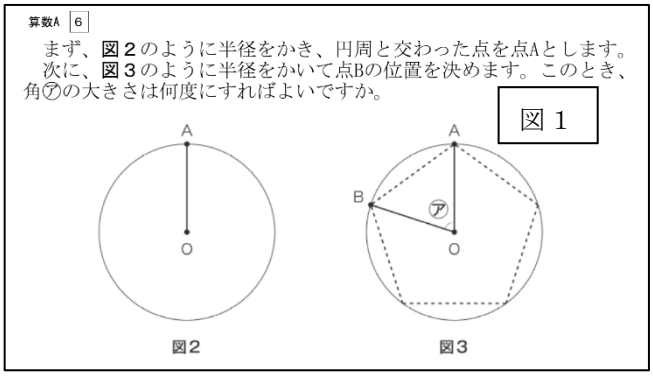
算数ＡとＢ、共に県や全国平均を上回りました。「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」領域別でも、ほぼ平均と同じ数値となっています。

算数Ｂにおいては、記述（文章表現）３問題に大きな課題があります。無答（何も書けない）は、全国平均を超えています。

算数Ａ　課題

① 商を分数で表すことができる。
（５÷９の商を分数で表す）

② 正五角形は，五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している。（円をまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く）図１

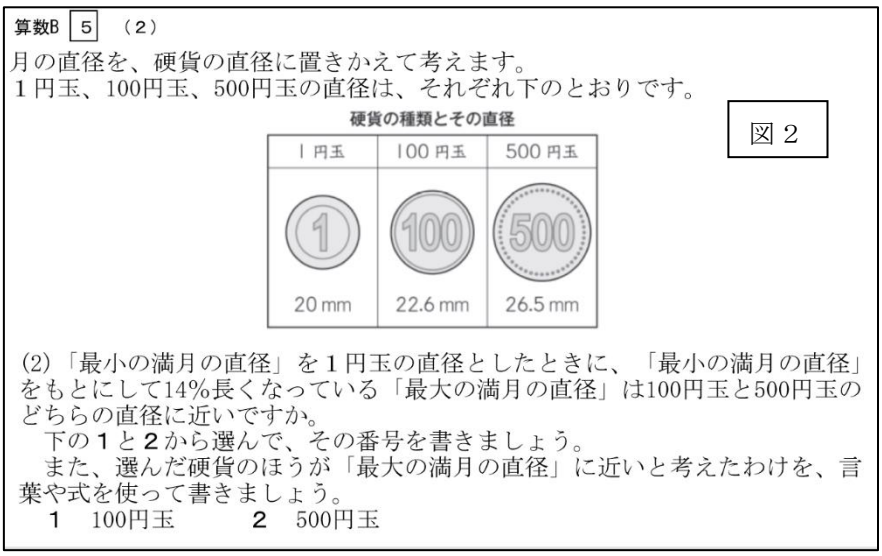


算数Ｂ　課題

① 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に，比較量を判断し，その判断の理由を記述できる。
図２

② 問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え，そのきまりを記述できる。

③ 仮の平均を用いた考えを解釈し，示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる。



基礎的な知識・技能を定着させるために、算数の授業の終わりにまとめを書いています。まとめを書くことで、この時間に身に付けるべき力や問題を解くポイント（今日の大事）を明らかにしていきます。また、授業の中では、友達の考えを聴き合う場面を作っています。式や図から友達の思考を読み取り、その数字はどこから出てきた数値なのか、図の中

にある線の意味は何なのか、ここでも言葉のやりとりが重要になります。正確に友達の考えを理解し、その考えを知ることで、いろいろな方法を考えるヒントになります。算数の時間には、様々な方法で解くことを考えたり、どの方法が一番速くて（は）簡単（か）で正確（せ）(「はかせ」) なのかをみんなで話し合ったりもしていきます。

また、算数でも多くの資料から必要な数値や条件を取捨選択することが必要となっています。たくさんの情報の中から必要なものを選んでいくためには、普段から読書で多くの文字に触れることや表やグラフから数値を読み取ること等の力が必要です。解き方がよくても正答までたどり着けないこともあります。正答までたどり着くには、正確な計算力や基礎的な知識が必要です。計算力については、繰り返し練習が必要で、大変根気の要ることですが、やる気が継続できるよう、励ましの言葉や成長を認める言葉かけをお願いします。

4 まとめ

授業をしていく上で大切にしていることは、子ども一人一人が意欲的に学習に取り組み、自らの力で課題解決をし、達成感や満足感を味わうことです。「できた・分かった」が、「楽しい！」から次に「もっとできるようになりたい！」へつながります。

下は算数に関する質問項目です。この項目のように、意欲のある子どもの気持ちを継続

質問項目　（肯定的回答の合計）	全国	本校
算数の授業で新しい問題に出合ったとき，それを解いてみたいと思う。	76%	90%◎
算数の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考える。	81%	91%◎

できる授業を考えることが必要です。そのために、子どもの意欲をかきたてるような課題を提示し、一人一人へ課題に対する考えをもたせ、それを子どもたち同士で交流する中で、課題解決が図れるような授業となるよう、学校も努力していきます。

一方で、家の方には、今後も家庭学習の時間を大事にしていっていただきたいと思います。学校ホームページにも載せてあります「家庭学習の時間の目安」と「目指す家庭学習のすがた」は以下の通りです。(一部抜粋)

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
30分間	40分間	40分間	50分間	60分間	70分間

	低学年	中学年	高学年
家庭の協力	★子どもと一緒に取り組む。（隣に座り励ます、教える、確認する）	★子どものそばで見守る。（近くにいて励ましの声を掛ける、確認する）	★「一人学び」をうながす（確認の声を掛ける、ときどき見る）

学校で学んだことを繰り返し学習することで、基礎的な理解や技能が定着します。それは子どもたちにとって、面倒なことであり粘り強さが必要なことでもあります。(例えば、繰り返し繰り返し唱えて、繰り上がりのある計算を即答できるように練習した方も多いと思います。) 声を掛けるだけではなく、家庭学習の見届けと協力（ほめる・認める・励ます・助言する・教える等）をお願いします。

吉永第二小学校学校ホームページで、学校の毎日の様子を発信しています。学力向上に対する取り組みも、発信していきます。ご覧になってください。

ホームページアドレス（http://www2.city.fuji.shizuoka.jp/~p-yoshinaga2/）